

## ポジティブ語ゲーム

私の家には少し変わったルールがある。その名も「ポジティブ語ゲーム」。ルールはそのまま、ポジティブな言葉しか話してはいけない。今年から始動したこのゲームは、母の愛が詰め込まれていることを妹は知らない。

妹は口が悪い。と言っても陰口を言うとか文句を言うとかではなく、思ったことをそのまま口に出してしまう。そのために、妹は毎日、友達とのトラブルが絶えない。素直な良い子だと家族は分かっているけど、言い方がきついと誤解を受けてしまう。妹は一人ぼっちになってしまった。普段は気が強い妹が、輪から外れて一人でいる姿に母は胸を痛めた。そこで始まったのが「ポジティブ語ゲーム」だ。ネガティブな言葉をポジティブに言い換える。たったそれだけのシンプルなゲーム。たったそれだけで妹は少しずつ変わった。妹の口から出る言葉は母の魔法で優しい言葉に変身する。「あの子うるさい」が「元気がある」に変身したり、「行動が遅い子」は「慎重に行動する子」に変身したり。ポジティブな言葉は人を笑顔にする。我が家では笑顔が毎日見られるようになった。それから、このゲームが始まってから、人の良い所を探すようになった。良い所が見えてくると、文句を言わなくなる。母の作戦は大成功だった。そしてついに、妹が友達を連れて家に来た。もう気が強いだけじゃない、優しい思いやりのある子に成長した。

母は言う。「誰かを傷つけるより、傷つけられる方が何倍もいい」私もそう思う。妹がもし傷つけられなかったら、こうして成長することはなかった。人は傷を負うことに強く、優しくなる。それは妹で実証されているんだから。これからも我が家でポジティブ語ゲームは続けられるだろう。母の魔法の言葉で、私達はまた強く、優しくなるだろう。

「はい、そうじゃなくて?」